

「1 m の」と「1 m あたりの」

15 m の重さが 93 g の針金について、わり算の問題として出題される時は、「1 m の重さ」を求めるよう問われるのが普通のものである。これが単位量あたりの大きさの問題として出される時は、「1 m あたりの重さ」を求めるよう問われるであろう。

「1 m の重さ」と「1 m あたりの重さ」とでは何か違いがあるのか。また違いがあるとしたら、その違いは何で、それは子どもたちにどのように説明されているのであろうか。

ばかばかしいことのようにであるが、その違いを考えることは、わり算についての単元と単位量あたりの大きさの単元との関係を考えることにもつながるように思われる。またわり算の単元はかけ算の単元とも関わるから、結局、乗除に関わる単元（いわば乗法構造に関わる単元）と単位量あたりの大きさの単元との関係を考えることにもなり、算数の体系を考える上では、それなりに大きな話にもなってくる。

このあたりについて、私たちがじょうずに整理できて、子どもたちに見通しよく学習してもらおうようにできたら、算数の指導、特に高学年の指導もよりよいものになるような気がする。

（参考：[割合と単位量あたりの大きさ](#)）